

令和4年度下松市総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和4年11月10日(木) 午後1時30分～午後2時45分
- 2 開催場所 下松市役所5階 503会議室
- 3 出席者 [構成員]

市長	國井益雄
教育長	玉川良雄
教育委員会委員	江口雄二
教育委員会委員	白木正博
教育委員会委員	林 哲人
教育委員会委員	木佐谷真理子

[関係者]

企画財政部長	真鍋俊幸
総務部長	大野孝治
教育部長	河村貴子
教育次長	今谷昌博
学校教育課長	藤田康伸
学校給食課長	小林政幸
生涯学習振興課長	引頭康行
図書館長	長弘純子
教育総務課管理係長	金子麻紀

4 会議の付議の顛末

○教育次長 本日の進行を務めます、下松市教育委員会教育総務課長の今谷と申します。よろしく願いいたします。

開会に当たりまして、國井市長より、ご挨拶いただきます。

○市長 皆様、改めまして、こんにちは。令和4年度の下松市総合教育会議、開催に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、今日はお忙しい中お集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。この総合教育会議は、市長部局と教育委員会が十分な意思疎通を図って、教育についての課題やあるべき姿を共有する場であります。様々な協議ができるよう進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日の議題でありますけれども、文化財の保護と活用についてであります。

ご承知のとおり、このたび、下松市の天王森古墳から、多数の埴輪が発見されたところ

であります。先日も、天王森古墳大刀形埴輪公開記念講演を、無事、開催いたしました。非常に貴重なものであるという認識をいただいたところでもあります。

埋蔵文化財をはじめ各種文化財を保護し、未来へ、後世へと引き継いでいくことは、行政として非常に重要な役割でございます。本日は皆様のご意見を伺いながら、目指すものを共有し、下松市教育大綱の基本目標であります多様な教育、学習の機会の充実による、生涯にわたり生き生きと学べるまちづくり、これの進展が図られることを期待しております。

本日の会議が実りあるものとなりますよう、奇譚のないご意見をいただくことをお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。議員の皆様、本日はよろしくお願いいたします。

○教育次長 ありがとうございます。

本日の日程ですが、はじめに、引頭生涯学習振興課長が、埋蔵文化財行政の現状について説明をいたします。その後、市長と教育委員会との意見交換、協議を行うこととなります。

それでは、引頭課長、よろしくお願いいたします。

○生涯学習振興課長 皆さん、こんにちは。生涯学習振興課長の引頭と申します。

今から、埋蔵文化財行政の現状、天王森古墳と埴輪の今後の展開ということで、簡単にご説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それでは、座って説明させていただきます。

まず、埋蔵文化財ですが、埋蔵文化財というのは、文字どおり、土地に埋蔵されている状態にある有形の文化財、有形の民族文化財、それから記念物の一部、そういった文化財を指す言葉でございます。

集落の跡、古墳、城跡などの遺跡、住居や井戸の跡、墓の跡などの遺構、それから、そこから出土した土器や石器などの遺物が埋蔵文化財になります。ですので、この天王森古墳そのものや、天王森古墳から出土した大刀形埴輪というのが埋蔵文化財になります。

次に、埋蔵文化財の包蔵地でございます。この地図は、下松市の埋蔵文化財の位置を表しています。ちょっと小さいので見えにくいのですが、下松市は、このように分布されています。赤い点や線で囲われた部分が埋蔵文化財の包蔵地とあって、埋蔵文化財があるとされているところで、下松市には70か所以上が認められています。

ちなみに古墳の分布は、こういった、今、茶色い線を出したようになっておりまして、末武平野を囲む丘陵沿い、それから切戸川沿いの丘陵、そういったところに分布しております。

埋蔵文化財包蔵地で工事を行うときは、文化財保護法によって、必ず届出が必要になっています。場合によっては、市職員が立会をして工事に臨むことがあります。天王森古墳の周辺の工事においても、立会を行いました。その結果、埴輪が出土したということになります。

下松市の古墳と埴輪は、ご存じの天王森古墳からだけではございません。今回の発見により、これまでに発見されていた埴輪が見直されたりしたものもありますので、紹介します。

下松市には古墳がたくさんあるだけでなく、山口県内では、古墳時代の前期から後期まで、継続して古墳がつくられた地域、下松市だけでございます。また、埴輪が出土した古墳も、山口県では、群を抜いて多い地域でもあります。

このことから、古墳時代を通じて、都怒の国、都濃の国の中心として、下松市が栄えていたのだろうということが分かります。

それから、こちらが、ご存じの宮ノ洲古墳から出土した4枚の銅鏡のうちの一つです。この銅鏡は、世界遺産の沖ノ島から出土したものと同じ型でつくられた鏡です。ひよっとすると、卑弥呼の鏡かもしれませんということが言われています。

この銅鏡が出土したということから、この地域が大和王権から重要視されていたということが分かります。

こちらが、常森1号墳から出土した船の模様、線刻のある埴輪片で、これが、船の先から2本の錨が降りている、そういう絵です。

この船のこの紋様は、継体大王の墓とされる今城塚古墳からもたくさん出土してしまっていて、王権との深い関わり、それから下松市に、この近辺に良港があった、そういったことが分かる、そういうものでございます。この船の模様は、今城塚のシンボルマークになっています。

こちらは、宮原2号墳から出土した馬型埴輪です。ちょっと、白い部分は多いのですが、馬型埴輪が出土したのは、県内で、下松市のここだけになっています。

それから、惣ヶ迫古墳の、こちらは、朝顔形埴輪です。先般、講演していただいた、花園大学の高橋先生により再評価されたもので、朝鮮半島の埴輪と特徴が似ている。それから、紀伊半島の埴輪の影響も見受けられるということで、紀氏や渡来人と深く関わりがあったということが想像されます。この朝鮮半島の特徴を持つ埴輪は、日本では、唯一ここしか出ていないのではないかと思います。

これらに加え、天王森古墳から埴輪が出土した、こういう、下松市の誇る文化と、こういう状況です。

こちらが、天王森古墳から出土した当時の埴輪の状況です。

埴輪群の特徴としては、西日本有数のもの、西日本では東日本に比べ、形象埴輪が余り出土しないらしいのですが、その中で大量の出土があつて、専門家の方も注目しています。

それから、最上級の残存率、遺存状態で発見されたということが特徴です。通常、埴輪はバラバラの破片で、ジグソーパズルのピースをつなげていくような復元になるのですが、これがこういった、丸い形のものが、ゴロゴロと出ておるのが分かると思います。こういう状態は、非常に貴重というふうに言われております。

それから、今城塚古墳の埴輪と似ている。大刀や盾といった武具の埴輪が充実しているということが特徴です。

高橋先生からは、これらを踏まえて、教科書に載るレベルのものという言葉もいただいていますし、高橋先生やほかの専門家の方からも、重要文化財の指定もあり得るのではないかという評価をいただいております。

そして、この古墳の埋葬者は、軍事的功績のある人物、天皇から埴輪の工人を派遣されるほどの有力者、それから、日本書紀には、雄略天皇の命を受け新羅に渡った大和王権の小鹿火宿禰という人物が登場しますが、ひょっとしたら、その小鹿火宿禰か、その後継者ではないかという可能性も指摘されています。

天王森古墳の今後の展開について、2つほど紹介したいと思います。

まずは、専門的なアプローチによる調査、研究が必要と考えております。天王森古墳の調査や、それに基づいて報告書を作成し、それにより古墳や出土埴輪の位置付けを行います。そうした専門員を中心に、専門的、それから継続的な研究、事業を展開することによって、将来的に重要文化財の指定を目指します。

また、それとともに、貴重な埴輪を市民に見ていただく展示場所、たくさんの埴輪があります。展示場所の検討が必要になってまいります。

次に、教育への展開です。実物の展示、それから、デジタルアーカイブでのインターネット上での公開、そういったものにより、皆さんに触れていただく機会を提供します。

それから、小学校の副読本での紹介、また、古墳については公園として整備し、校外学習、遠足などで活用する。社会教育の場として埴輪づくり教室、こういったものを取り組みたいと考えております。

こうした活動により、子供たちに、下松市の誇る文化財に触れる機会をつくって、下松市への愛情を醸成します。

先日、スターピアで高橋先生の講演がありましたが、その中で、私の印象に残ったのですが、先生が日本書紀にも出てくる大豪族がいる。下松は、日本の骨格がつくられる古墳時代において、なくてはならない地域だったのだと。天王森古墳や惣ヶ迫古墳など、それに関わる物的証拠が出ている。そんな夢とロマンのある場所は、日本にここしかない。下松の人は、胸を張っていいと言われました。このようなことを市民の皆様を意識づけをしたい、そういうふうに考えております。

以上のことから、生涯学習振興課では、課題として3点、次のように捉えています。

まず、調査研究を進め、重要文化財の指定を目指すため、文化財の専門的な組織体制の整備。それから、市民への情報発信を進め、この貴重な宝物を市民に知ってもらい、下松市の自慢として郷土愛を醸成していく。

それから課題として、最後に、埋蔵文化財をまちづくりの起爆剤として活用するという。埋蔵文化財を観光の資源、産業への資源、そういうふうに活用して、オール下松でまちづくりを進めていく。そういったことが課題と考えております。

こちらは、先ほどのスライドでもありましたけれど、これは、埴輪コンテストの堺市長賞の埴輪になります。これは、大阪の埴輪とか古墳の専門ショップ、民間の方、お店が開催している埴輪コンテストの優勝作品です。

古墳や埴輪の認識が浸透している地域では、官公庁だけでなく、民間もそれを使ってまちづくりを進めています。下松市としても教育だけでなく、観光や産業部門、それから、官だけでなく民も協働して、オール下松で進める必要があるというふうに考えております。

それから、最後にまとめですが、情報発信や組織体制の整備、文化財の活用、課題を踏まえて施策を総合的に進めることにより、文化財を守ろうという保護機運が向上、そして、それにより下松愛の醸成が図られる。そして、観光、産業への活用が期待できます。そして、新しい魅力と活力、下松市の文化の発展、まちのにぎわい、地域ブランド力の向上、交流人口、関係人口の増加、そういったものが期待できます。そして、住みよさが実感できるまちの実現に近づいていくのではないかとというふうに考えております。

天王森古墳から出土した埴輪というのは、その可能性を秘めたまちづくりの資源であり、下松市保有の宝物であるというふうに思っております。

今後、これらをどうまちづくりに活用していくか、そういったことが問われている、そのように思っております。

以上で、埋蔵文化財行政の現状として説明を終わります。ありがとうございました。

「文化財の保護と活用について」

○教育次長 それでは、議事に入ります。

議事の進行につきましては、下松市総合教育会議運営要綱第4条第3項の規定により、市長が行うこととされております。國井市長、よろしく願いいたします。

○市長 それでは、進行を私のほうでさせていただきます。

今、生涯学習課長の引頭課長から、埋蔵文化財の話、また、先般の講演会の話も含めて、このロマンを感じておるわけですがけれども、ちょっと、今の課長の説明を受けて、また、この前の講演会も聞かれたと思うので、そういうものを含めて、ちょっと、お一人ずつ、今のお気持ちなり、お聞かせいただけたらと思います。どなたからでも結構です。

○教育長 今日は、市長さんのほうでも、下松の文化財、埋蔵文化について、今後の展開について考える機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。

今、引頭課長のプレゼンを見まして、改めて、このたびの天王森古墳の重要性、あるいはすばらしさ、あるいは今後の将来展望、大きな、明るい将来展望が開けるということで、すばらしいものが出たなど改めて思いましたし、加えて、下松には、実は遺跡、古墳を含めて70もの遺跡があって、そのうち50も古墳に関わる遺跡がある。日本に唯一しかない、唯一と言われているような埴輪もある。朝顔型とか、あるいは船の船刻のある埴輪と

か、本当に珍しいものもある。天王森と併せてこういった遺跡文化をしっかりと調査、研究をして、下松の市民の方に知ってもらおうと同時に、やはり、それを新たな資源として活用していくということが大事なのかなというふうに思います。また、保護についても、改めて考えていかななくてはいけないかなというふうに思いました。

今年、復元されたのが2体、大刀形と円筒埴輪の2体あるのですが、今後、毎年2体ずつくらい、珍しい立派な埴輪が披露される予定です。これの展開についても、ぜひ考えていかななくてはならないし、組織、あるいは人員についても、市長部局のバックアップをいただきながら、これを整備していただかないといけないと改めて思いました。

令和2年の12月に、寒い中、天王台に行って、うちの職員が手で掘っているところを思い出しました。彼らは1500年前のロマンに最初に触れた人間で、多分、そのときの感動というのは、大きいものがあったと思うし、今後、しっかりと調査を進めていきたいと思いました。感想です。

○市長 ありがとうございます。マイクを渡されたということは、もう順番でお願いします。

○委員 意見がまとまっていないのですけれども、私自身、古墳に余り興味を持っていなかったのですが、今回の天王森の大刀形古墳とかも出て、いろいろ聞いてみますと、古墳が好きな人って、意外と多いんですね。

そして、古墳女子という方がおまして、私、フェイスブックをやっているのですけれども、それを見ても、実は、古墳が大好きだというような、そういう人がたくさんいます。

ですから、まちづくりの何かに使えるかなと思うのですが、一方で、古墳は全国で16万基あるのだそうです。それから、その中の一つにしかすぎないと言えすぎないのですが、今、引頭課長さんの話を聞きますと、その中でも突出した価値がある古墳であるということを知って、これはなかなかすばらしいなと思っています。

そして、後から意見が出るかも分かりませんが、教育とか歴史的とか古代への考えとか、当時の人の技術水準の高さとか、そういうものを知るいい機会にはなると思います。

また、改めて思ったのですが、引頭さんも言われておりましたが、下松市、住みよさランキングで3位ですが、古墳時代は、ひょっとしたら住みよさランキング、ナンバーワンだったかもしれない、そういうふうにも思いました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

○委員 私も、ちょっと古墳に興味があったものではないのですが、意外に県内にたくさん古墳があって、この市内にも、結構、50基以上、こんなにたくさんあるのだなというのを、今回のことで調べたりしてみて、改めて知りました。このようにたくさんあることも知らなかったですし、結構、埴輪もいろいろ出ているというのを書いてあり、知らないことってすごくたくさんあるなということと、今回出てきた、この埴輪の、すごいつくりのすばらしさというか、質感とかがすごくリアルにつくられているところに、最初にお写真

を見させていただいたときに、すごくびっくりしました。

本物をロビーで拝見したときも、すごくびっくりしたのですけれど、こんなにきれいな状態で、しかもこういうつくりのすばらしいものが出てきたということを発端に、また新たに、先ほど引頭さんが言われていた埋蔵文化財、下松市にこんなにありますというお写真を幾つか紹介していただき、すばらしさを改めて見直すよい機会になるのではないかなと思っています。

子供たちにも、これを発端に、ここだけではなくて、ほかの埋蔵文化財も見てもらって、下松市ってすばらしいなというのを、親子で、学んでいただけないかなと今回考えています。

○市長 ありがとうございます。

○委員 失礼します。私、下松は、最初の勤務地が下松だったので、出身はもちろん違うのですが、それ以来ずっと、もう50年近くわたって、下松に住んでいるのですが、結構知らないことがあるなと思いました。

ふるさとのことについて、いろいろな学校を回ったときに、学校教育目標の頭とかに、「ふるさとを誇りに持つ」とか、「ふるさとを大切に」とか、そういう言葉が結構あるような気がします。

やはり、ふるさとのことを知って、そして、それを大切にというのは、すごく教育の上で大事なことだと思いますし、この子供たちが、将来、だんだん成長していくときに、下松のよさをどんどん発信していってくれるのではないかなと思います。

そのためにも、今回の発見というか、埋蔵文化財を得たことを、できるだけ子供たちに新鮮な記憶として、ぜひ、残させておいてほしいなと思います。

そのためには、もしかしたら専門員、専門の方が各学校を回って、いろいろな学校のゲストティーチャーという形で、社会の時間とか、そのほかの教科の時間でもいいと思いますが、そういうときに、ぜひ、子供たちに本当の下松のよさというのを指導できるように、教員の力をつけていかなければいけないかなというふうに思います。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

○委員 皆さんが、大変いいこと言われたので、最後にしゃべるのは難しいのですが、先日、島の学び舎に行ってまいりました。島の学び舎のすばらしいことというのは、下松の歴史が一目で分かるような感じで、立派に、いろいろな展示品がありました。

あれを見るたびに、今まで興味のない人でも、下松はこういったところなのかなというものを、実際にものに触ってみて確かめられました。

今度は、さらに大きな古墳時代のこういったもの、埋蔵文化財出たということが、非常に下松の大きな財産であるとともに誇りであると思います。

ですから、この誇りを、どうして子供たちに伝えていくか、あるいは、他の県とか、皆さんに自慢してもいいことなので、これをどうしてPRするか、これから、そのPR方法

について考えたらいいと思います。私も今回初めて知ったのは、下松が日本全国の中でも非常に重要な地であったといったことで、昔、雄略天皇という天皇がいて、その天皇の派遣で小鹿火という人が来て、小鹿火さんが、この辺の都濃の国に住んだと、こういったことがわかりました。

実は、これは4コマの漫画なのですが、これを見てすぐに分かりました。こういったようにして、子供たちに分かるように、漫画でもいい、何でもいいから分かりやすいような、文章も大切ですが、分かりやすいようにすることが大切です。

そして、低学年は、まず親にPRして、親から子供に伝えていくとかが必要です。いろいろなPR方法はあると思いますが、それはまたみんなで考えていこうと思いますけれども、とにかく、本当に素晴らしいものが出た、この財産を皆さんにPRして、下松市民が誇りとして、後世にどのように伝えていくか考えることが大切です。

まず、展示方法が大事だと思います。まず、都濃の国という字も難しいし、言葉も分からないので、都濃の国の小鹿火ということから初めて、人物の、その歴史ミステリーを解いていくとか、みんなで研究しようというようなものにしてもいいと思いますし、いろいろな方法があるので、これから皆さんと一緒に考えていきましょう。

○市長 ありがとうございます。委員の皆さん、一様に、これまで十分、古墳なり埴輪を知っていたよというよりも、新たにカルチャーショックを受けられたというような印象を受けたのですけれども、今、大変な財産だ、誇りに思っているよというのは、本当に、私も感動的な思いをしています。

また、親から子供たちへという話がありましたが、子供たち以前に、私も松江に出張に行ったら、まず古墳、埴輪のところへ行ったり、東京出張のときは、上野の展示会がちょうどあったので、埴輪の展示を見に行ったりして、まず全国の古墳も知ってやろうと思い、皆さんに、「知ろうよ、知ろうよ」言う前に、自分から知ろうと思って、努力もしているところです。今までお話がありましたように、組織なり人員を考えていけないといけない、展示方法も考えていけないといけないという話であります。

これからの大きな夢を、プランを実現するために、先ほど、引頭課長の説明の中では、国の重要文化財にも上げていけるのではないかという、素晴らしい夢のような話がありました。そのように、徐々に徐々に、一足飛びには進みませんが、皆さん方に、ご意見聞きながら進めていきたいというふうに思います。

今、子供たちへという話もございました。今までのご感想も、十分に加味しながら、林委員さんからも、ふるさとを愛する、ふるさとを大切にというのは学校教育の中であると言われました。ではこれを、今現実に下松市内の教育の場で、古墳や埴輪を、どのような形で、どう具体的に進めていくか、教員の皆さんへの周知もさることながら、話題を変えて、教育の中で、どのように古墳、埴輪を生かしていくか、少しその辺の議論に移りたいと思います。

○教育長 学校教育の中の展開ということで、いろいろな方法があると思います。今、委員

さんが言われたように、誰が伝えるのかということです。これが、かなり大きな問題になると思います。

実は、先月、公集小学校に行って、まちづくりについて話をしてきました。そのときに、この天王森、今回出た埴輪についても、最初に導入部分で、ホットな話題ということで、子供たちに話をしたのです。6年生でしたけれど、残念なことに、公集小の子供たちに、どのくらい知っているか、手を挙げさせたのですが、あまり知りませんでした。出たことすら知らないというような状況でした。ちょっと、ショックを受けたのですけれど。

私なりに、一応用意していた手物で話をし、クイズ形式でやったのですけれど、やはり子供たちは、内容に非常に興味を持っていました。

ですから、後から感想を見ても、こんなものが出たのか、すごいものが出た、もっと見てみたい、本物を見たいというような子供たちがたくさんいましたので、やはり現物です。現物をしっかり子供たちに見せたい、あるいは触れさせたいという思いを持っています。先ほど、より分かりやすくするためには、市の広報に、漫画という形で掲載するという意見がありましたけれど、ああいう手法もあるし、副教材で、「きょうど 下松」があります。今、原稿を作成中ですが、来年度からは、それにも出てきますので、授業の社会科の中で、小学校3年生、4年生が勉強していますし、郷土学習として総合的な学習の時間で展開できるということもあります。

それと、やはり教員に対する研修です。教職員が余りまだ知らないというのは、残念なことなのですが、その辺も周知が必要です。どう研修していくかということも検討していこうと思っています。

アプローチはいろいろな方法があると思うので、ご意見をいただければと思います。

○委員 さっき、引頭さんの話を聞きながら、教育という場合に疑問に思ったことが3つあるのですが、あの天王森古墳の形態、例えば、前方後円墳とかいろいろありますよね、円墳とか。あそこの形態は、どういう形態ですか。

また石室はどうなっているのだろうか。古墳ですから、石室があり、木の棺桶を入れるらしいのですが、そこから何も出なかったのだろうか。それぞれ調査は終わったのかということと、天王森古墳という名前がついていますが、そのいわれが分かったら教えてもらいたいと思います。

○生涯学習振興課長 まず、古墳の形ですが、前方後円墳です。

こちら側が円、こちらが前方部です。

それから石室ですが、かなり古い文献には、何か石室があったとか、盗掘されていたとかいう記録があるのですが、本当かどうか、定かではなく、はっきりしておりません。

今年度、レーダーを地中に放射して、その反応による土中の状況の調査を行う予定です。それによって、石室が存在するのかなど、わかってきます。ほかにも埋蔵文化財があるのか、石室の中に宝があるのか、どういう状態で、今、埋蔵文化財があるのかという調査を行います。

それから、天王森の由来ですが、これははっきり分かっておりません。

以上です。

- 委員 聞いたところによると、いろいろな上円、下方円、といった名前があるらしいのですけれど、前方後円墳は、一番格式が高いと書いてあります。やはり、相当格式が高い古墳ということになると思います。

先ほどの興味ということなのですが、例えば柳井市の茶臼山古墳の施設みたいなものは、今さらはできないと思います。

また膨大な予算をかけて、飯塚に大塚装飾古墳という、すばらしい古墳があるのですが、これは、何かレプリカと思いますが、何億円というお金がかかります。そのようなものはとてもできないでしょうから、もうソフト面で勝負するしかないと思うのですけれども、やはり専門員がいるのではないかと思いました。

以上です。

- 市長 ありがとうございます。

- 委員 大刀形埴輪に関するチラシは、学校にどのぐらい配っているのでしょうか。

- 教育長 正確な数を把握していないのですけれども、学校に数部です。教員、あるいは子供たちが一冊ずつ手に取るようなものは配付しておりません。

- 委員 中に書かれていることが、小学生には少し難しいとも思います。中学生ぐらいだったら、ある程度理解できるだろうし、例えば、担任の先生なり、あるいは社会の先生なり、全体会のとき、校長とか教頭とかが、これについて話すときに、手物が何もないと、何か持っている、これについての説明がしやすい。専門員の方が来られて、みんなで勉強しましょうというような会を持つのなら、ぜひ活用できるように、クラスに掲示する、学級数プラスぐらいは、配っていたほうがいいと思います。また、これを見ますと、「下松埴輪物語ナンバー1」と書いてあります。今後、さらにこれを、発掘状況によって出される予定、計画があると思うので、そのときにはぜひ、ある程度の数は学校に配布し、先生が教えやすい環境をつくってあげることが大事と思いました。

- 市長 ありがとうございます。

- 委員 この発掘された天王森古墳、これは、いつ頃具体化されるのでしょうか。

- 生涯学習振興課長 まだ現在工事中ですが、令和5年度の早い段階で、下松市のほうに移管されると聞いております。

- 委員 なるべくニュースというのは、熱いうちに、皆さんに知らせたほうがいいと思うので、できるだけ早うちに、現場を子供たちや、親や市民に見せてほしいです。現場をまず見せたいということと、もう一つ、副読本をつくるのであれば、かなり時間がかかると思うので、その前に、数枚程度でいいですから、号外みたいな形で、下松に新しく埴輪が発見できたという小中学生向けのニュース的なタブロイド判で何かできませんか。

見開きのページだけでもいいと思います。こういったものが出たということ、タイムリーに知らせたほうが子供たちに響き、面白いと思うのです。

その際には、具体的に、また分かりやすく漫画も入れて、子供たちが興味を持つようにしていただければありがたいと思います。

まず現場を見せて、具体的に子供たちに教えてください。たびたび市民講座も開くのがいいと思います。学芸員については、大賛成です。下松に足りないのは、学芸員がいないことなので、これから学芸員を育てていくことが必要です。下松は非常に歴史があり、昔から港が非常によかった、下松は良港だった。もしかしたら、この辺の一带を治めていた強大な土地を持っていて偉い人がいたかもしれない、こういった夢とロマンを広めていきたいと思います。

さらに星が降りてきた伝説とも絡めて、下松は、歴史的に非常に神聖な地であり、また、重要な要の土地であったということをしてPRしていくことが大切だと思います。

○市長 ありがとうございます。

○委員 先ほど、教育長もおっしゃられたのですが、子供たちが、まだまだ知らないというところが、結構大きな課題と感じていて、うちの息子が小学生と中学生なのですが、2人とも、何かが出たということしか知らず、何か出たらいいね、埴輪だったって、埴輪って言われた、という程度です。こういう形をした、何かお人形さんかと思っているのですが、さらに、主人も、何かすごいのが出たらいいという程度です。

先ほど、親子でといったのは、やはり、親子で一緒に学んで、親子で研究していくと頭に残りやすく、認識しやすいと思います。できれば、読み物として、読むのが嫌いな子もたくさんいますので、漫画でもいいです。

また参観日とかに、何か説明をしてくださる方がいて、親子で聞く時間を、6年間の中に1回持つのがいいと考えました。それを解説してくださるのも、専門的な方ではなくてもいいと思います。私も、教育長や、生涯学習振興課長からお話を聞いて、すごいことというのが、分かりました。かみ砕いて、ざっとお話ししていただくと、「すごいな」と思い、うちの家族も、私が話をただけで、「何か、ワクワクするね」という話をしてくれました。「今後、どうやって研究されていくか分かるとおもしろいね」と期待していたので、専門的な方が、わざわざ説明するという必要はなく、お話上手な方が、かみ砕いて、親子に分かりやすく楽しく説明してくださる方がいいと思いました。

さらに、発展した考えとして、夏休みの自由研究の1回を親子研究に代えて、下松のことや、埴輪について、親子で学習を深め、調べ学習が得意であれば、古墳のことを調べる、図工が好きだという子であれば、埴輪を親子でつくるというのもいいと思います。絵が得意であれば、ちょっと、その当時の絵を考えて描いてみましたがでもいいし、国語が好きな子であれば、ちょっと妄想し、お話をつくってみましたとかでもいいと思うのですが、自由な夏休みの課題を親子で取り組み、楽しい記憶に残るといいのではないかと思います。

学習に生かすにはどうしたらいいだろうと考えたとき、親御さんにとっても、親子の時間を持てることは楽しく過ごすことができている事だと思います。

私も市外の出身です。大人ですが、下松市のことは実はあまり知らないことが多いです。

子供のほうが、3年生、4年生で学習してきた分、よく知っていると思います。最近、市外から引っ越して来られる方も多いので、親御さんも一緒に勉強をする機会があればいいと思いました。

- 市長 ありがとうございます。小学生、中学生、それからご主人と、総じてお話していただきました。私は、この貴重な天王森古墳と埴輪を、学校教育や社会教育にどう生かしたらいいかという提案をさせていただいたところ、皆さん一様に、まだ情報不足と言われました。パンフレットも数部配っているということですので、学校の子供たちにどういうふうに知らせるのか、ニュースも子供向けのニュースを検討したらどうかという意見もいただきましたし、是非取り組んでいただきたいと思います。

総合計画は子ども版をつくっています。こんな宝物が出たのに、なかなか子供たちに伝わっていないという現状が、今分かりましたので、その辺を教育部長、一言お願いします。

- 教育部長 いろいろ、ご意見ありがとうございます。今、まさに、市長が最後まとめて言われたとおりで、確かにPRしたい、知ってほしい気持ちはたくさんあったのですけれども、その子供たちに届ける、具体的な方法については、研究不足のところがありましたので、今、いろいろおっしゃっていただいたような案も参考に、また、学校教育課の職員にも話しながら、どういった形で届ければいいのか、鉄は熱いうちに打てとのことですので、できるだけ早く取組をしていきたいと思います。ありがとうございました。

- 市長 ほかに執行部の方で、何か思いがありますか。図書館長。

- 図書館長 今、図書館では、「図書館からまちの魅力発信」を目標に掲げて、まちの魅力となり得る地域の歴史を発信する取組に力を入れています。その取組の大きな柱となるのが、郷土資料デジタル化事業です。

「下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」は、公開から7年目を迎え、毎年掲載資料の充実を図ってきました。月平均5万6,000件以上のアクセスがあり、市内外を問わず多くの方に下松の文化財などを目にしていただいているということがよく分かります。

ちょうど、パソコンが準備されていますので、前で一緒に見ていただこうと思います。

これは、「下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」というサイトに入っていたところの、トップ画面です。この中に、考古資料という項目がございます。

ここに、大刀形埴輪など、最近発掘されたものの画像が入っております。国指定重要文化財である宮ノ洲古墳出土の三角縁盤龍鏡と四面の銅鏡です。これは細部も拡大して見ることができます。

先ほど、引頭課長から沖ノ島の銅鏡と同じ鋳型でつくられているというような説明もありましたが、高精細で見ることができます。ほかにも市内の遺跡や古墳から出土した考古資料も、いろいろと掲載しております。

また、先週火曜日、11月1日には、天王森古墳の大刀形埴輪、惣ヶ迫古墳の朝顔形埴輪の3D画像を公開しました。3D画像ですので、画面を回転させて裏側を見ることがや、

拡大をすることもできます。胃カメラのように中を見ることができます。また細部を見ることもできます。実際に物を見るのが一番ですけれども、ヘッドケースの中に入っていたら、裏側はみることができませんが、このアーカイブを利用すると、広げてみたり、裏返してみたり、いろいろな角度で見ることができます。

地域交流センターに展示をしてあります朝顔形埴輪についても、同じように拡大や、回転させて鑑賞をすることができます。

デジタルアーカイブの良さは、インターネット環境があれば、パソコン、タブレット、スマホで、いつでもどこでも下松の文化財などに触れることができることであり、これからは、このデジタルアーカイブの更なる充実とともに、効果的な活用を広めていく必要があります。

その一つの試みとして、小中学校で、郷土資料デジタルアーカイブを活用した出前授業をしてみたいと考えています。全ての児童生徒がタブレットを持っているので、環境は整っています。

今年の夏休みには、豊井小学校で教職員対象にデジタルアーカイブ活用講座を開いたところ、2学期から授業で使ってみないと、先生方に大変好評でした。子供たちは、教科書に載っている歴史的な出来事を身近に感じてはいないと思いますが、下松の先人たちが残したものを、実際に目にすることで、同時代、下松にも重要な歴史が刻まれていたことに興味や関心が湧いてくると思います。

その気づきの輪を広げていくことが、文化財の保護、郷土への誇りと愛着を育むことにつながっていくと思います。

図書館は、地域の情報拠点として、社会教育の立場、学校教育の立場、両方ともをカバーしていきたいと考えておりますので、この文化財を活用して、まちの魅力をこれからも発信していきたいと思っております。

以上です。

○市長 デジタルアーカイブについて、小学校、中学校へも出前で講座を行いますという、言い訳をさせてもらいます。

ここをまとめると、学校教育や社会教育にどう生かしていくかというよりも、まだ宣伝不足というほうが、先に出ましたので、これは執行部も反省し、これだけの文化財、いいものを知らせていく必要があります。先ほど、松江に行ったとき表現されたのは、埴輪というのは、その地域の文化と歴史のタイムカプセルだという表現がありました。まさにそのとおりだと思います。これだけの誇りに思っている文化財が出たわけですから、自信を持って、誇りに思っ、もっと知らせていくことが大切です。その上で、教員にも、やはりよく知っていただき、教育現場で話していただくことが必要です。そこに力を入れていきたいと思っています。

教育、文化、社会教育だけにとどまらず、先ほど、埴輪女子が全国的におられるという話がありましたけれども、埴輪を好きな人、関心を持っている人は、物凄く深く知ってお

られ、さらに知りたいと思っておられます。古ければ古いほど知りたいというような、興味を持っておられることも事実です。それに関して、古墳から埴輪をまちづくりにどうして生かしていけばいいか考える必要があります。市民の中にもかなり浸透して、教育にも生かされ、さあ、この埴輪をまちづくりにどう生かしていくのか、これは、教育現場だけの話ではなく、民間の商工会議所なり、いろいろな商業ベースにもなろうかと思えます。どういう展開がいいか、参考にいい意見があれば、どういうふうに生かしてもらったらいいとか、希望的な話になりますが、今から議題としたいと思えます。

○委員 すみません、そういう話も出ようかと思って、調べてきたのですが、一番初めに埴輪をつくろうと思ったのですが、これは、既に山口県立博物館で、「埴輪をつくろう」という会をやっておられます。30人くらい募集されておられるのですが、すごい人気があるようです。

そして古墳にコーフン協会といった、おもしろい名前ですけども、とても真面目な協会です。古墳のイベントとか全部ネット上に出ているのですが、それを見ますと、古墳のいろいろなアイテムを販売しています。古墳特別展や企画展を開催し、新しく古墳サミットというのもありました。また、古墳祭りや古墳巡り配信というような新たな研究成果を発表しています。下松市もそういった、いろいろなことができると思えます。

あまりお金をかけなくても、ソフト面で知恵を絞って、何か企画をして、市民や市民以外にもアピールできることがあればいいと思えます。これは、すごいアイデアを絞り出さないといけません。

○市長 ありがとうございます。ほかに、何かご意見がございましたら、どうぞ。

○教育長 今のお話を聞きながら、やはり、知恵を絞れば、お金をかけずにいろいろできるという思いもしました。

古墳を含めて遺跡がたくさんありますので、実際、私もどこにあるのかわからない所もあり、地図上では分かりますけれど、古墳マップとかをウォーキングと兼ねてできるようなものが一つできるといいかなと思えました。また、埴輪のグッズが必要と思えます。下松の特徴というのは、武具です。武具埴輪、形象埴輪の武具が非常によく、いいのが出ていますし、今後は人物埴輪も出てくるということですので、金をかけずにレプリカを、例えば公民館やお店、学校とかに置いて、小さいものが気軽に見ることができるようなものも、できるといいかなと思えます。

これは、市で行うというよりも、民間の力を借りた方がいいと思えます。あとは、食べ物とかも、古墳いろいろクッキーとかいいと思えます。

○市長 ありがとうございます。これは総じて、仮に下松市民の皆さんに、ある程度浸透した段階ということで、想定の下で、お話を聞きます。先ほどのお話もありましたように、柳井の茶臼山古墳は、バブルの絶頂期に造られたと思うのですが、今の下松には、そういうハード面は当てはまらないと思えます。まさに知恵を出しながらソフト事業に力を結集したいと思っています。ウォーキングとかは行政でできますけれども、民の力で、民と一

緒になってやる事業も効果が大きいと思います。

これは、先の話ですけれども、いろいろなご意見をいただきながら、まちづくりとか、地域づくりに生かせれば一番いいので、行政のほうで考えがあったら参考までに意見ををお願いします。

- 企画財政部長 いろいろなご意見、ありがとうございます。シティープロモーションとまちづくりという両面、下松市のまちづくりというご意見ですが、最近の下松の取組を紹介します。80周年のときマスコットキャラクターをつくりました。そのとき教育委員会にご協力いただきまして、投票事務を小学生に、開票事務を中学生にお願いしました。

先ほど、ご紹介もありましたけれど、総合計画の子ども版をつくり、幼い頃から下松市を好きになってもらい、そのままできれば下松から流出しないで残ってほしいという願いで行っております。

シティープロモーションのほうにつきましては、観光とか、ものづくりとか、あと無形文化財とか、いろいろな財産が下松にあると思いますので、その辺を結集して、例えば下松市の昔からの音源、歌とか、文化・歴史を総称して何かやったらいいのではないかというご意見もいただいております。機運が盛り上がったところで、まち全体で盛り上がるような政策に、この埴輪も大きな役割になるのではないかと考えております。

必要なときには財政の話になりますので、責任を持って取り組みます。

以上でございます。

- 市長 今日画像で説明を受けて、感想を聞きました。これを社会の教育にどう生かしていくか、また、まちづくりにどう生かしていくか、そういう観点から、皆様方からご意見をいただきました。

学校教育なり社会教育にどう生かすかというときに、まだまだ宣伝不足だというのを、具体的に皆様方からご意見いただきました。重ねて言いますが、総合計画子ども版を作成して、市内の小学生と私はいろいろな交流というか、話合いができるようになりました。玉川教育長は、先ほど、公集小学校に行ったら、子供たちは知らなかったという反省もありました。

そういう中で、先ほど、ふるさとと思う心と言いながら、なかなかそこを伝えていないと言われましたが、未来を担う子供たちにきちんと伝え、教育にどう生かしていくという辺の反省もしなければいけないと思います。

その反省の上に立って、皆さん方からご意見いただきました組織なり、これからの人員体制の充実を目標にし、将来的には重要文化財の指定を受けるのというような大きな命題もあります。

そんな、夢、ロマンを追いかけるわけですから、組織、人員の問題も大きく、学芸員、専門的な方も必要になってくると思います。また、展示方法も必要になろうかと思えます。

いろいろな人も、金もかかるわけですけれども、ソフトに知恵を出し合って、進めさせていただきたいと思えます。

今日、市議会議員さんが多くいらしておりますけれども、9月議会でも、大変関心の高い課題でありますし、これからは、教育委員会の委員さんも、そしてまた議会の議員さんも含めて、この下松の宝を、財産をどう展開していくのかというのを、みんなで協議、話し合いながら進めてまいりたいと思います。

今日は、この古墳から出た埴輪を中心に、文化的なところからの話を、皆様方から頂いたわけですが、これだけは言っておきたいというのがありましたらどうぞ。

○教育長 今、子供たちへの周知という話をたくさん頂きました。早急に、今日頂いたアイデアを基に、子供たちに分かりやすい形で、広めていきたいし、教職員にも、子供たちに指導できるような資料等を提供していきたいと思います。

いろいろ執行部のほうでも、生涯学習と、それから学校教育と連携しながら、子供たちのためにやっていきたいと改めて思いました。本当に、今日はありがとうございました。

○市長 ほかに委員さん、いいですか、よろしいですか。

では、今日の議題、文化財の保護と活用については、ここで閉じさせていただきます。

それでは、事務局のほうにお返しします。

○教育次長 ご協議、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度下松市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。

午後2時45分終了